



カンボジアの子どもたちに教科書を

2013年6月 No. 45

カンボジア便り

市井秀治

～目次～

カンボジア便り	
黒板、コピー機の寄付	1
識字学校の移転	2
トクトクでの通園	
リティさんの結婚	
ボランティアさんの感想	3
スタッフ紹介	4
平成24年度会計報告	5
事務報告	6

黒板とコピー機を寄贈しました

前回のニュースレターでお伝えした通り、Swedish Lifestyle 様のご寄付で、教科書支援を行っている小学校各校へ黒板、ならびに共有して使用するコピー機の寄贈を行いました。黒板に関しては、教育省から購入した場合は1個当たり75ドルでしたが、板やペンキなどの材料を購入して大工に製作

を依頼することで、1個当たり35ドルにまでコストを削減することができました。最終的に、最も黒板が不足していた Watkdoi 小学校へ5個、それ以外の小学校へは1個ずつ、合計15個の黒板を寄贈しました。小学校の校長等のアイデアで、子どもたちが日韓アジア基金への感謝の気持ちを忘れないように、という配慮からすべての黒板に、「I Love Asia Fund 2013 (2013年 日韓アジア基金)」と刻印してあります。

黒板製作中



完成した黒板





購入したコピー機

また購入したコピー機に関しては、盗難を避けるため現在はルセイサン小学校校長宅で保管しており、ルセイサン小学校で各校が利用できるよう、又安全に保管する方法等を検討中です

識字学校が新しい場所へ移転しました

当会が家賃負担を含め運営を支援している識字学校が、家主の都合もあり新しい場所へと移動しました。新校舎は、ワットハー小学校の近くで、以前の所からは1キロほど離れた場所になります。家賃は今までと同様月額20ドルです。新校舎の周辺は、貧しい家庭の子どもがたくさんおり、学校に行けない子どもや、学校に行っても十分に読み書きができない子どもなどを対象に、2つのクラスで授業を行っています。一つ目のクラスは、小学校1年生の子ども約20人が、教育省のカリキュラムに沿ってクメール語と算数の教科書で学んでいます。もう一つのクラスは、小学校3・4年生に相当するクラスで、現在約22人の子どもが学んでいます。



新しい識字学校で勉強する子どもたち

トゥクトゥクで子ども達も元気に通っています

前回のニュースレターで支援決定の報告をさせて頂いた、ルセイサン幼稚園の子どもたちの通園の為の送り迎えをするトゥクトゥクですが、無事運行を開始しました。当面1年間の支援とし、今後の成果を見てその後の対応を決めたいと考えています。



トゥクトゥクで通園する子どもたち

おめでとう、リティさん

最後に、当会のカンボジア現地のスタッフであるリティさんが、めでたく結婚しました。新しい家庭で幸せを築いて、これまで以上に当会への活動にも力を入れて取り組んでくれることでしょう。お幸せに。



ボランティアさんの感想

ニュースレター発送作業に参加して

会社員 小森 健一郎

参加動機は、平穏な日常生活を生きている中で何か社会に貢献したいと考えたからです。また、現在でも日本と韓国の間には歴史認識等の多くの問題がありますが、経済的な関係が年々深まっている両国は、この問題を解決に向けて努力しなくてはならないはずで、この解決に向けて少しでも力に成れたら・・・と考えて「日韓アジア基金」のボランティアへの参加を決めました。

意外にも当日は韓国の方がいらっしゃらなかったもので、若干の戸惑いがありました。又今までの人生でボランティアは殆どやったことがなく、参加するには勇気が要りましたが、参加してみると大澤さんを始めとするスタッフの皆様に暖かい雰囲気を作って頂いたことで、気持ちが楽になりました。実際に作業をしてみると、多くの方の金銭的な支えによってこの基金が成り立っていることがわかり、この[基金の歴史]と[創設者の禹守根さん]の素晴らしさを実感しました。個人的にも多くのアジアの途上国を旅行した経験もあり、アジアの子供たちに学べる機会を作ってあげたいという思いがあったので、微力ながらお手伝いできたことは本当に嬉しかったです。

最近パソコンで文書を書くことが多いので、久々の手書き作業に慣れない部分はありましたが、いつもとは違う達成感がありました。こんな時代だからこそ、手書きでメッセージを書くというコンセプトは素晴らしいと思います。個人的にも手書きの手紙を貰うと凄く嬉しいです、手書きの方が気持ちは伝わると思います。

発送作業終了後には昼食会があり参加させて頂きましたが、普段の生活では聞けないような新鮮なお話を皆様から聞くことができ貴重な機会になりました。ボランティアの素晴らしさや、この基金の歴史を知り、この基金の活動に少しでも携わることができて良かったと思いました。この基金のイベントにはまた是非参加したいと考えています。

「心のお土産」をもらって

社会人 匿名

日韓アジア基金の活動は、気軽に参加できること、初めて参加した者でも和みやすい雰囲気で作業できること、そして、年齢やバックグラウンドの異なる方が分け隔てなく楽しく時間を共有できることが特徴的だと思います。

今回も、大澤さんはじめスタッフの方に、明るく、友好的に迎え入れて頂いたり、レポートで参加した方が、初参加者に積極的に声かけをして、緊張しないような雰囲気を自然に創り上げているところが印象的でした。ボランティア＝作業のみの団体が大多数の中、作業を始める前に「自己紹介」の時間を設け、それぞれの参加動機や関心事項を聞くことができることで、お互いに親近感が沸いたことも、楽しく作業できる要因だと思います。

その雰囲気が功を奏してか、それぞれが受け身の体制ではなく、いかに効率よく作業できるか話し合いながら、進めることができました。

今回は、中学生からリタイア生活を送る方まで、それぞれの参加動機も異なりましたが、作業中や終了後の懇親会で様々なお話を伺い、私自身気づかされたことやパワーをいただくことがたくさんありました。スタッフから、参加のお礼の言葉もいただきましたが、私自身は“心のお土産”を頂いたようで、逆にこのような場を提供していただいたことに、感謝したいと思います。

今後も、時間が許せば、参加したいと思っています。今回、一緒に参加させていただいたみなさんは前向きな方ばかりで、機会があれば、また再会して楽しい時間を過ごすことができたら嬉しく思います。ありがとうございました。

他の交流会とは違い新鮮だった

安 明奎(ミョンギュ)

今回参加した日韓アジア基金の「ビビンの会」は、今までの交流会とは違うところが二つあって個人的には新鮮だった。

一つ目は、参加者から受け取る参加費の一部をカンボジアの子どもたちの教育支援に使うことだった。参加者はほぼ初対面が多く、お互いに外国との交流を目的として参加、その交流で皆楽しくて充実した時間を過ごせた。しかも私たちが過ごした時間は楽しい思い出で終わらず、教育支援という善の行動に繋がる流れはステキだと思った。

二つ目は、今まで私が参加していた交流会は韓国に興味を持っている方が多く、たまには韓国人より韓国に詳しい方もいた。それで韓国のことだけを主なテーマとして話をしたが、今回は広く外国に興味を持った方が多かったので、「人と人」として話し合った気がして面白かった。おかげで今までよりも個人的なことを話せたり、より素直に接することができた。交流会は日本の方々とグループを組んで自由トークを行い、最後にはグループで話した内容を全体の前で発表する形だったので、自分のグループの方たちだけでなく、交流会に参加した皆と交流することができた。発表することを意識していたので勉強会のような気もしたが、それなりに緊張感があって楽しかった。

世代や組織を越えての意見交換

田崎 美里

今回私がビビンの会に参加したのは、友人の誘いからでした。以前から何度かお誘いをいただいていたのですが、都合が合わず今回が初参加となりました。

会に参加して私が率直に感じたことは、日頃思っている事、自分の考えを他の人達と世代を越えて討論し、共有出来る場は貴重でありがたいと言う事です。学生の方々、社会に出ている方々それぞれ討論の場は沢山あるかもしれませんが、しかし、世代を越え、属している組織を越え自由に意見交換を出来る。そんな場がビビンの会ではないでしょうか。

私にとって会は楽しく、充実した時間でした。参加したら人生観が変わる、とまでは言いませんが、新たな自分の発見や他の参加者の斬新な意見に出会うかもしれません。今後は継続して参加したいと思っています。

スタッフ紹介



田之畑 諒

皆さん、初めまして。2012年12月にスタッフ登録させて頂きました、田之畑 諒（たのはた りょう）と申します。

私がスタッフ登録させて頂いた理由は、自分の都合で仕事やし易そう、という事でした。私は、今年度から病院に所属しながら、通信制の大学院に通わせて頂いております。そこで、自分の都合の良い日、良い

時間にボランティアが出来るというフレキシブルな体制に大きな魅力を感じました。また、メーリングリストを通して、いつでも情報の共有が出来るのも、私の今までいた社会では、行われていない良いシステムだと感じております。

私の現在の人生の研究テーマは「世界中の誰もが安全・安心に生活できる環境を構築することだ」と考えております。また、その通過点として大学院に通い、NPO・NGOの活動に関わり続けたいと考えております。その中でも、日韓アジア基金に出会い、スタッフとして活動に参加できることを嬉しく思います。自分に何が出来るかわかりませんが、だからこそ、自分のテーマの基、自由な発想を出し続けていきたい。それが、日・韓・アジアの歴史の壁を取り払うのに寄与できれば幸いです。そして、この過程は、私の研究テーマに繋がるものと考えております。よろしくお願い致します。

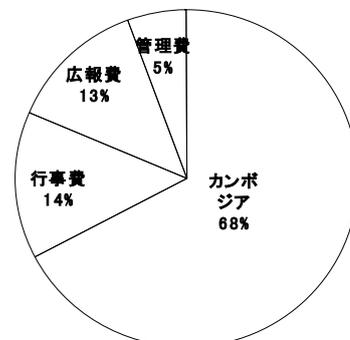
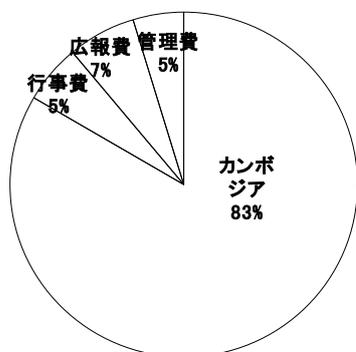
お金の使い途を中心にした決算報告と予算

事業年度を変更したため、支出については6ヶ月間の合計となっております。

平成 24 年度支出
(平成 24 年 7 月～24 年 12 月)
総額 173 万円

日本

平成 25 年度予算
(平成 25 年 1 月～25 年 12 月)
総額 127 万円



- ・カンボジアの金額は約 144 万円で、例年より多くなっています。これは現地の車両を代替した費用 80 万円が含まれているためです。
- ・事業費はビビンの会の開催経費で、参加会費との相殺になっています。
- ・広報費は、ニューズレター及び年賀状の印刷・送料と外部イベントへのブース出展費用が主なものです。

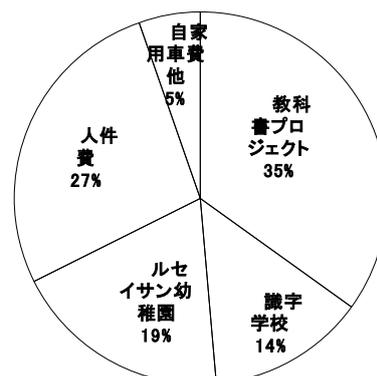
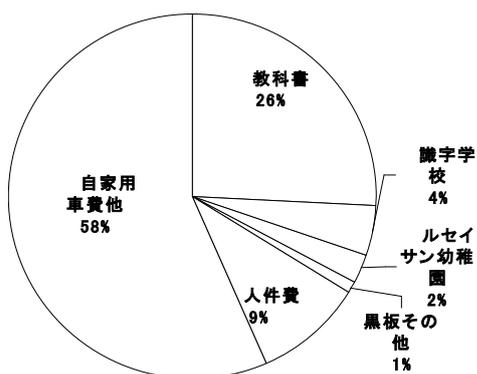
- ・カンボジアの費目別内訳は下記に示します。
- ・行事費はビビンの会の開催費用で年間 3 回開催の計画です。費用は参加者からの会費との相殺になります。
- ・広報費は前々年度並みと考えています。

支出に占める事業費の割合が、約 95% と非常に高い値になっています。これは国内スタッフが全員ボランティアで、人件費及び交通費等が零であること、事務所経費が、貸主であるアジア文化会館様のご好意で無料であるという特殊事情によります。

平成 24 年度支出
総額 16,600 ドル

カンボジア

平成 25 年度予算
総額 11,400 ドル



- ・自家用車代替費用は 8,970 ドルでした。
- ・教科書支援は 11 校に 3,885 冊、4,151 ドルでした。
- ・識字学校支援は教員の給与 620 ドルと教室の家賃 120 ドルが主なものです。
- ・人件費はリティ氏の給与です。
- ・平均為替レートは 80 円/ドルでした。

- ・教科書支援は 11 校で 4,000 ドルを予定しています。
- ・識字学校支援は教員給与 1,320 ドル、家賃 240 ドルが主なものです。
- ・幼稚園支援が例年より多いのは、教員の給与 600 ドルに合わせ、通園支援の Tuk Tuk の費用 1560 ドルが加わったためです。
- ・人件費・その他経費は前期実績並みと考えています。
- ・予算立案時の予想為替レートは 95 円/ドルです。

独立した事務所を持たず、日本との連絡はインターネットカフェで行うことで、管理費が大幅に低減しています。節減額は過去の実績から年間 2 千ドルと見込んでいます。これは全てリティ氏の努力の賜物です。

平成 24 年度定期総会完了報告

日時 3 月 16 日(土) 13 時 30 分～14 時 15 分

場所 アジア文化会館 地下ホール

昨年 9 月の年次総会で当会の事業年度を変更し、昨年 12 月が期末となりましたので、今回総会を開催したものです。

予定の審議事項は全項目承認され、無事終了しました。

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・五十音順)

2013 年 3 月 3 日 ニュースレター44 号 発送作業

阿部純子・今林英二・勝優子・加藤史也・韓晔霞・小森健一郎・齋藤芳徳・土田彩加・戸高怜・永島靖之・西川由利子・西萩綾希・沼里 実果・星野 廣平・宮下修・油田奈緒子・渡邊恵里香

2013 年 5 月 12 日 第 19 回ビビンの会グループリーダー

李ヒス・李美珍・鎌田涼・久保田裕美・小森新・ささ・田崎美里・バンヒョナ・樋山浩平

2013 年 2 月 16 日～2013 年 5 月 16 日に会費・ご寄付を下さった方 敬称略・五十音順(別枠除く)

磯尾 彊一	大町 卓也	高木 修	匿名	細川 武	柳田 文子
岩見 豊子	黒巢 香	高木 桂子	中川 敦司	松田 明美(2件)	山根 寛
大塚 紀子	越塚 忠巳	田中 節子	長島 和子	満井 啓二	兪 和暎(2件)
大坪 玲子	小林 栄次郎	塚本 美和子	平塚 千尋	八坂 涼子	

ボランティア野菊の会 マールツァイト白井幸子

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)

賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)

法人会員:年会費1口10万円

ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153

口座名 日韓アジア基金

・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権があります。

・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問い合わせ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)

E-メール: ilaf@iloveasia2.sakura.ne.jp

HP: 検索サイトで「日韓アジア基金」で検索なさってください。

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也